

津田沼駅周辺帰宅困難者等対策協議会通信・情報伝達訓練の実施結果について

津田沼駅周辺帰宅困難者等対策協議会の各機関から登録いただいた各種連絡先に対して、災害時の連絡方法の確認や、登録している連絡先が確実につながるかの確認のため、通信・情報伝達訓練を実施しました。

実施結果の詳細は、下記のとおりとなります。

■日 時：平成 24 年 9 月 5 日（水）午後 2 時～午後 3 時 40 分の間

■方 法：F A X ・電子メール・電話 の 3 種類

各機関から登録いただいたそれぞれの連絡先の状況を確認

■参加機関：25 機関（連絡先数：FAX→27・PC メール→23・TEL→30）

事前実施機関 5 機関（当日参加が困難な機関は事前に実施）

当日実施機関 20 機関

■時間経過：【FAX】

番号登録のある 22 連絡先（当日不参加を除く）に、習志野市から一斉 FAX を送信し、返信により受信状況を確認した。

○午後 2 時 07 分 一斉送信

○午後 2 時 30 分 全ての送信が完了（送信に約 20 分を要した）

○午後 3 時 32 分 全ての受信確認完了

【PCメール】

アドレス登録のある 18 連絡先（当日不参加を除く）に習志野市から一斉メールを送信し、返信により受信状況を確認した。

○午後 2 時 10 分 一斉送信

○午後 3 時 36 分 全ての受信確認完了

【電話】

電話連絡網に記載の 25 連絡先（当日不参加を除く）に対し、連絡網に従い、各機関へ FAX 及びメールを送信した旨を伝えると同時に、順次、次の機関へ連絡を回して、各グループの最後の機関が習志野市に伝達状況を報告した。

○午後 2 時 20 分 FAX 送信状況を確認後、各グループの先頭に連絡

○午後 2 時 50 分 連絡網の最後の機関から伝達完了の最終報告

■全般的所見：訓練全般的には計画どおりに実施できた。

何点か課題があがったため、「個別事項」及び「共通事項」について下記のとおりまとめる。

■検討課題：【FAX】

[個別事項] ①一斉に受信することで、回線が輻輳し、一時的に送受信が困難となることがあった。

⇒今後は、事務局となる習志野市災害対策本部に災害対応専用の FAX を新たに整備することを検討する。

②FAX の設置場所が近くにならないため、送信されていることに気付くのが遅れた。

⇒情報伝達手段の優先順位を決めておく必要がある。

(優先順位：①FAX → ②PC メール → ③電話 など)

【PCメール】

①個人メールアドレスを登録している機関は、アドレスを所有している個人しか受信確認ができないため、気付くのに遅れた。

⇒共有アドレスを登録するか、若しくは、別の情報伝達手段を優先する。

【電話】

①今回は、習志野市から 9 機関へ連絡を回したが、内容が軽微なものであったため大きな負担にはならなかった。しかし、多くの内容を各機関と個別にやり取りすることを考えると、困難となることが予想される。

⇒原則、各グループの先頭の機関とやり取りを行い、必要に応じて個別のやり取りを実施する。また、災害時優先電話を有効に活用するため、発信と受信を分けて使用することも検討する。

②FAX 及びメールを送信した旨を電話で連絡したが、連絡を回している間に一部、内容が伝わっていないこともあった。

⇒電話で多くの情報を伝達するのは正確性に欠けるため、比較的正確性の高い FAX やメールによる伝達を主体とし、必要に応じて電話を活用する。

- [共通事項]
- ①24 時間体制で情報を受信できる部署や体制整備が必要となる。
 - ②複数の連絡先を登録しておく必要がある。
 - ③多くの情報を伝達するのではなく、最も重要で必要な情報を限定して伝達する必要がある。
 - ④現在ある情報伝達手段が使用不可能になった時の、最終手段となる伝達方法の検討が必要となる。(例：PHS・無線・伝令員派遣等)

協議会事務局（習志野市危機管理課）
担当：佐々木・千葉・谷澤